



長崎県の主要露地野菜であるブロッコリーでは、経営規模拡大にともない農作業の省力化が求められており、これまで被覆肥料を単肥として利用した元肥一発施肥体系が試験されていますが、配合肥料の原料の設計までできていませんでした。

そこで、JA全農ながさき、くみあい肥料㈱、JA島原雲仙と共同で秋作年内どり・年明けどりブロッコリー用の元肥一発新肥料を試作し、2021、22年度に栽培試験を行いました。

その結果、年内取り、年明け取りのどちらも、被覆肥料LPS40を11%配合した新肥料(15-7-7)を用いた栽培と追肥を要する慣行栽培は

収量、窒素吸収量ともほぼ変わりませんでした。
また、定植2週間後まで、LPS40由来の窒素分は土壌中ではほぼ溶けず(定植直後の

秋作ブロッコリー一発肥料試作

慣行と収量変わらず 追肥省略、コスト減も

肥効は他に配合する速効性肥料を利用し、追肥時期となる定植2〜4週間後に本来追肥で補う窒素量が溶け出すため、追肥作業を省略できました。現在、一層の肥料コストの縮減を目指して、国産堆肥を

原料としてブレンドした肥料(15-6-3)の商品化に向けて、試験を実施しています。
(長崎県農林技術開発センター 環境研究部門 土壌肥料研究室 主任研究員 五十嵐 総一)

図 秋作ブロッコリー栽培における基肥一発新肥料の試作

